

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600479		
法人名	社会福祉法人厚真町社会福祉協議会		
事業所名	厚真町高齢者グループホームやわらぎ		
所在地	北海道勇払郡厚真町字本郷236番地6		
自己評価作成日	令和2年2月18日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173600479-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173600479-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったり、のんびり、楽しくを目的に、いつでも、どんな時でも、温もりと安らぎのある生活を目指して取り組んでいます。  
施設敷地内に大きな畑があり、農作物などの栽培を楽しんでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年3月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「厚真町高齢者グループホームやわらぎ」は本郷地区に位置し、法人社会福祉協議会が運営している1ユニットの事業所である。同法人の小規模多機能事業所と併設し、生活支援ハウスに隣接している。広い敷地全体を「ともいきの里」として、町の福祉施設サービスの中心となっている。開設19年が経過し、昨年に交代した管理者は業務を引き継ぎながら法人の方針に沿って新たな視点で取り組んでいる。地域との関係では、法人の合同行事が町のイベントのように親しまれ交流の場になっている。厚真町出身歌手の歌を聞く機会もあり、住民も参加して鑑賞している。ボランティアの来訪で、地域の婦人グループが畑づくりや利用者のお話を聞き顔馴染みになっている。行事でスコップ三味線の演奏なども楽しんでいる。地域のこども園や、町営の学校(小学校、中学校、高校)とは継続して交流の機会がある。震災後に大変な時期を過ごした職員が看取りを行う中で安定したかわりができるように、法人全体で職員の精神的な緩和と資質向上、育成に力を注ぐとともに、災害時の協力体制を強めて利用者の安全な生活環境を整備している。管理者と職員は理念に沿って一人ひとりに向き合うケアを大切にし、個別の意向に沿って好みの食事を提供したり、買い物ドライブで四季が感じられるように可能な限り対応し、日々温かな姿勢で接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は、事業所内に掲示している。毎朝引継ぎ終了後、皆で発生し職員間で理念を共有し、これを意識して業務にあたっている。	一人ひとりと向き合い、自分らしく安心して暮らせるよう支援する内容の事業所(グループホーム)理念を掲げている。理念を毎日唱和し、地域と共に生きる「ともいきの里」という環境を意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のこども園や小中高(学校)との交流機会を持ち、地域住民のは事業所のイベントなどに参加していただいている。	地域の文化祭に、利用者と紙細工で製作した町産地のハスカップ、コメなどを表現したマスコットキャラクターや貼り絵の作品を出展し、見学している。法人合同の行事には住民の出店協力もあり、町のイベントのように親しまれ盛大に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはないが、社協本部と連携しながら支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の意見がある場合は、事業運営の参考にしている。	併設の小規模多機能事業所と合同で定期的に会議を開催し、自治会役員や町の担当者、家族代表の参加を得て、行事、防災、外部評価、感染症などのテーマで意見を交わしている。会議での意見を参考に災害対応マニュアルを見直している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町職員に運営推進会議参加していただいている。	当法人の社会福祉協議会が役場内にあり、常に連携ができる。町の担当者とは電話やメールで対応したり、介護認定の更新手続きを代行することもある。事業所として町営学校(小、中、高校生)の職場見学、体験、実習なども受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の指針を示し、手引を介護員に配布している。ケア会議や職場内研修で、身体拘束をしないケアについて話し合っている。	指針に沿い法人事業所合同で委員会を3か月ごとに開催し、管理者の報告と議事録で全職員が内容を共有している。外部研修の参加から事業所内でグループワークを行ったり、グレーゾーン状態のケア方法を学んでいる。身体拘束禁止行為の確認や言葉遣いなども話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除の理念を示し、手引を介護員に配布し理解を深めてもらうとともに、虐待のニュースを職員で共有し虐待に関する意識を高めている。職員のストレスケアのため、円滑なコミュニケーションを意識している。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、十分な研修の機会を得られていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解がいただけるよう、丁寧に説明するように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者家族会を開催しており、要望や意見をいただく機会を設けている。また、家族来訪時に職員が積極的に話をすることで意見聴取に努めている。	年数回の家族会のほか、来訪時には近況報告の中で健康状態の話し合いから献立に取り入れることもある。介護計画の意向も聞き、個別のケア記録に記載している。今後は職員の気付きも含めて個別の些細な意見も記載し共有を考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面談の場において、意見を聞くように努めている。	職員会議では行事やケアの対応を話し合い、利用者の導線に合わせた物の配置などを決めている。管理者と法人職員が個別面談を設け、職員が学びながら意欲的に業務が行えるよう、可能な限り労働環境の整備を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や退職金の支給制度の整備など、現状でできる限りの労働環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職責や職歴に応じた研修に参加できるように更なる機会を増やせるように努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所の行事等を通じて交流をしている。また、近隣事業所との親睦を深めるように努めている。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、家族やサービス事業所から情報を集めるとともに、サービス開始後も本人に意向を確認するなど、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族と面談するとともに、サービス開始後も意向の再確認に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申請時の相談機械において、ほかに適当と考えるサービスについても説明する事で他の選択肢も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊仕事や調理、裁縫等、利用者が得意なことを職員が教えてもらうなど、暮らしをともにし支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時などにおいてご家族の役割などをともに考え、本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別での外出支援において、行きつけであった農協で買い物をしたり、町内の馴染みのある場所に出かけている。	近所に住んでいた友人の来訪があり、受診時や地域のイベントの際に知人に会うこともある。墓参りや美容室に出かけたり、スーパーマーケットで化粧品や好みのおやつを買うなど、家族の協力も得ながら馴染みの人や場との関係を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性の把握に努め、円滑な人間関係が保たれるとともに、孤立しないように留意している。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談等があればフォローアップする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動を記録し、ケア会議等で検討している。	会話や、普段の様子を見て本人の習慣、趣味、嗜好などの情報を共有し、意向などは介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族にこれまでの生活歴について聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議により、日ごろの状況について把握、共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議においてモニタリングを行い介護計画を作成、修正している。	6か月ごとに計画を見直し、利用者担当と計画作成担当者でモニタリング表を作成し、ケア会議で評価を確認して介護計画を完成させている。日々の記録では、ケア記録表に支援内容の状況や変化なども記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日の生活記録を作成しており、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化するニーズに対して、柔軟に検討し、ともしきの里全体で支援できることはないか、ボランティアの活用などはできないかをケア会議の場で検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体や多事業所との交流を通して楽しむことができている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に沿って、かかりつけ医に定期的に受診している。受診の際には職員が付き添い、受診結果については電話等で家族に報告している。	今年度の冬期間は月1回の訪問診療を受けている。かかりつけ医療機関の受診は家族が対応し、利用者の状態によっては職員が同行することもある。往診、通院の経過は個別に記録し共有している。	

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を構築しており、週2回程度、契約看護師が事業所を訪問している。適宜看護師との相談、連絡ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報交換に努めており、できるだけ早期に退院できるよう連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を構築するとともに、ターミナルケアに関する指針を策定している。これを利用者家族に説明・同意を得るとともに、チームで支援できるよう努めている。	利用開始時に「重度化した場合における看取り指針」で対応可能な内容を説明している。主治医の判断で看取りに入る際に文章で意向を再確認し、看取りケアを行っている。看取り後には書式で評価を行い、振り返りを丁寧に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や体調急変時の対応マニュアルを作成し、掲示するとともに職員に配布している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成している。定期的に避難訓練を実施している。	消防署立ち会いで昼夜を想定した火災避難訓練を実施し、法人事業所の職員も参加している。地震などの自然災害時の対応マニュアルを作成し、法人全体での協力体制を整備している。今後はマニュアルに沿っての勉強会も考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関する指針を定め、個人情報の取り扱いは十分配慮している。本人の生活歴や性格を尊重した言葉かけ、支援に努めている。	利用者への呼びかけは「さん」付けとしており、丁寧な言葉遣いを心がけている。個人記録などの書類は、外部の方に見えないよう事務所内や書庫で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを汲み取るよう、思いを表出することが難しい方でも様々なコミュニケーションを通じて思いを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしにおいて、職員側の決まりごとを設けず、利用者一人ひとりのペースを保ち、個別にあった柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や施設行事などで化粧や洋服でのおしゃれの支援を実施している。整髪等の理美容については希望する店舗でサービスが受けられるように支援している。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	摂取制限のあるものに配慮しつつ、個人の嗜好を取り入れるよう考えている。下膳や茶わん拭きを中心に準備、片付けをしていただいている。また、職員も利用者と同じ席につき、一緒に食事を摂っている。	利用者の嗜好に合わせ、畑でとれた野菜や農協などの地元の食材を取り入れ、美味しい食事を提供している。時にはテラスでバーベキューをしたり、ラーメンの出前をとったりするなど変化をつけ、一人ひとりが食事を楽しめるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録によって食事、水分摂取量を把握し、過不足がないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄、口腔ケアを実施しており口腔内の状態も確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録によって排尿、便の間隔や時間を推定し排泄の自立にむけて支援している。	利用者全員分の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握している。自立している方が多いが、適切な動作訓練を行うことで状況が改善し、スムーズに排泄できる方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少なくならないように努めるとともに、個別に牛乳やヨーグルト等の乳製品を提供している。また、体操や散歩などで身体を動かす取り組みも実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれ入浴日は決めさせていただいているが、その日の本人の気分などで入浴を嫌がってしまうときは、別の日に変更したり柔軟な対応を行っている。	利用者の意向を聞き、午前や午後の時間帯に週2回の入浴を支援している。本人に合わせて機械浴も利用し、入浴を拒む方には声かけを工夫するなど柔軟に対応している。リラックスして入浴できるよう歌を歌ったり、一人ひとりが入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠だけでなく、日中もこまめに休息できるように、照明の明るさや室温等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容を確認しやすいように書類整理しており、薬剤の重要性を理解して支援している。不明な点は医師、看護師に適宜確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なことを活かしながら、家事、買物、レク、畑仕事などに取り組んでいる。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物外出、ドライブ、外食など定期的に計画している。	天気の良い日は、追分の菜の花畑までドライブしたり、桜の花や紅葉を見るなど、四季を感じられる体験を取り入れている。散歩や畑作りに参加し、コンビニエンスストアで新聞購入の希望に応じるなど、一人ひとりの嗜好に合わせて、外気に触れられるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自身で金銭管理されている方はいないが、家族と相談のうえ、行事等では少額の金銭を渡し、自身で支払い等ができるような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば家族に電話をされたり、手紙を書いて投函できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は食卓とリビングを分けて、くつろげる空間づくりに努めている。また季節に応じた装飾に取り組んだり、利用者が作成した作品などを掲示している。	食卓テーブルと別にソファ席を配置し、明るく開放感がある居間で、ゆったりと自分のペースで過ごせるよう工夫している。玄関や壁には利用者で作った貼り絵や作品が飾られ、季節に合わせた装飾品もあり、居心地よく家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数人が座れるソファを設置し、気の合う方と座ったり談笑している。また、職員が利用者の状況に配慮して落ち着いて過ごせる場所への誘導に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染み深い使い慣れた物品を居室に置くことで少しでも居心地が良いと感じられるように配慮している。	居室にはベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられ、他に加湿器や馴染みのタンスなどを持ち込み、居心地よい空間になるよう工夫している。壁には家族の写真や利用者の作品が飾られ、仏壇やぬいぐるみが置かれるなど、その人らしく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を出したり、トイレに「便所」という貼り紙をするなどの工夫により、自立した生活につながるよう工夫している。		



目標達成計画

事業所名 厚真町高齢者グループホームやわらぎ

作成日：令和 2年 3月 25日

市町村受理日：令和 2年 3月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、十分な研修の機会を得られていないことにより、制度についての知識が薄い。	全スタッフが制度の説明ができるようにする。	外部研修への参加、また参加した職員による復命研修を実施しスタッフ間で知識を共有する。	令和2年度に整え開始する。
2	35	胆振東部地震で被災した経験を活かし、風化させないよう日頃から災害対策についての意識を高めることが必要。	いどこで災害が起きても、利用者の安全を守り迅速に避難できること、避難生活が長く続いても混乱、動揺せずに落ち着いて対処できるようにする。	避難訓練の実施、災害マニュアルに沿ったの勉強会を実施する。	令和2年度に整え開始する。
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。